

5 学校評価の取組

(1) 昨年度学校評価結果

① 確かな学力

～目指す姿～

進んでかかわりをもち、自他を高める子

	項目	結果
目 標	○「話すこと・聞くこと」の目標を達成した児童が増える。	○評価・・・C (12 学級中 2 学級達成) ・真剣に聞くことが定着していない。相手に目を向けて聞く、うなづきながら聞く等、話す人の気持ちを考えた聞き方を繰り返し指導する。あわせて、メモをとるなどして大事なことを 1 回で聞き取る力を高めていかなければならない。
	○NRT国語第 1 部 (聞くこと・話すこと) の結果が、全国平均を上回る児童が多い。	○評価・・・A (243 人中 181 人が全国平均を上回る。通過率 74.5%) ・全国平均を上回ったクラスが多く、成果が表れた。
	○「算数・国語テスト」で平均点が 85 点以上となる。	○評価・・・A (12 学級中 10 学級達成) ・国語・算数テストへの取組に力を入れた学年が多く、結果も向上した。しかし、他のテストでは、漢字の読み書きが劣るという結果が出ている。
	○「意欲的に学ぶ姿勢」の目標を達成した児童の割合が増える。	○評価・・・A (12 学級中 10 学級達成) ・学年が進むにつれて、「学習準備」の評価が低い。 ・1 学期よりも 2 学期の方が家庭学習時間が伸びた。
地域保護者評価	○1 年生の時期に、基本的な学力や人とのかかわり方をしっかり学べるのが大切である。 ○家庭学習カードがあることで、自分から勉強に取り組んでいるので、とても良い取組だと思う。 ○教材(本等)を充実させてほしい。本のリサイクルコーナーの設置は可能か。(各家庭から持ち寄る) ○図書館司書の役割をする方は貴重。図書館ボランティアも育て、増やしていく。	
改善策	○漢字を読み書きする力や計算力の向上については、家庭学習の充実を図り、トキめきテスト(全県配信テスト)も活用し、確かな定着を図る。 ○「確かな学力は、確かな学習習慣から」という視点から、家庭と連携し、年 5 回の重点週間を設ける。 ○ボランティアの方々や P T A と連携して、蔵書を増やす工夫や新刊・廃棄図書の手早い整理を心がけ、図書館の充実を図る。	

② 地域を見る目

～目指す姿～

地域の人・自然・文化に進んでかかわり、考えを深めようとする子

	項目	結果
目 標	○地域の人・自然・文化に進んでかかわり、考えを深めることができた児童の割合が 80% を超える	○評価・・・B (12 学級中 8 学級が達成) ・1 学期の活動を継続し、長期にわたった調べ学習や調査を行った学年が多かった。 ・学習発表会での発表や、おたよりでの発信などまとめ活動の充実が図られた。
	○国際科の評価基準を達成できた児童の割合が 80% を超える。	○評価・・・B (12 学級中 7 学級が達成) ・英語活動では毎回興味や関心をもって、意欲的に活動する児童が増えてきている。 ・イカンガーさんや中国の留学生など国際的な活動が設定され、児童が興味をもっていた。
地域保護者評価	○地域や外国の文化に関心をもって自分の住んでいる場所を好きになってほしいと思う。 ○外国籍児童とのかかわりを通して、異文化理解を進め、社会性を身に付けることが大切である。	
改善策	○総合的な学習では、児童の「興味・関心」を「問題意識」へつなげるよう、児童が意欲的に取り組もうとするテーマを設定する。 ○英語活動で学んだ表現を国際理解活動で活用するなど、より実践的な活動の工夫に努める。 ○外国籍児童とのかかわりを大切に、互いの違いを認めつつ、尊重し合える人間関係づくりを進める。	

③ 豊かな心

～目指す姿～

互いに認め合い、相手を思いやる子

	項目	結果
目	○学校や地域で進んであいさつし、思いやりのある言動ができた児童の割合が80%を超える。	○評価・・・C(12学級中3学級が達成) ・全学級の平均達成率は、74%である。80%を超えたのは3学級、70%台は5学級となり、向上が見られている。 ・保護者アンケートの結果では、「あいさつ」「思いやり」のプラス評価が80%であり、これまでの中で最も高い数値であった。
標	○学校生活に満足している児童の割合が60%を超える学級が9学級を超える。	○評価・・・B(12学級中8学級が達成) ・Q-U調査の結果、68%の児童が「学校が楽しい」と答えている。前回との比較で4%増加した。
地域保護者評価	○あいさつ当番は、とてもよかったと思う。朝張り切って登校し、「いっぱいあいさつして疲れた・・・」と言いつつも満足そうだった。 ○友達のよいところを、皆で発表したり、聞いたりすることは、とてもよいことだと思う。そのことで人の気持ちが分かるようになると思うので。 ○ファミリー班活動やペア学年との交流を楽しんでいる様子が家庭での会話から伝わる。 ○登校班の班長が毎朝気持ちよくあいさつをしてくれて下級生のよいお手本になっている。児童が意識できるようあいさつ運動を続けてほしい。 ○児童をケアマネジメントの視点から見えていくことが大切。児童の願いをどんどん聞き、児童が参画する授業や学校づくりの推進を。 ○家庭と学校がいかにつながるか、家庭の力をいかに生かせるかを考えてもらいたい。	
改善策	○日常的な出会いの場での「こんにちは運動」や名前を呼んであいさつするなど、できることから保護者・地域と連携して取り組む。 ○社会性を育むために異学年交流活動等を仕組むだけでなく、それぞれの活動のめあてを明確にし、事前・活動中・事後の指導を充実させる。	

④ たくましい体

～目指す姿～

友達と共に運動に親しみ、健康な心や体をつくる子

	項目	結果
目	○体力テストの結果、強化を図った項目で県平均を上回る児童が増える。	○評価・・・B(児童の割合が全体の60%) ・県平均を上回った学級は8/12学級で、学校全体としては60%という結果となった。チャレンジタイムや体育の時間を使って体力向上を目指して取り組んだ。
標	○楽しく運動に参加している児童の割合が増える。	○評価・・・A(児童の割合が全体の84%) ・12学級中A評価は10学級、B評価は2学級である。 ・長距離走や縄跳び・マット運動などで学習カードを活用したり、ボール運動の試合方法の工夫やロープジャンプに取り組んだりすることにより、「運動は楽しい」と感じる児童が大部分である。
	○生活リズムが整った児童の割合が増える。	○評価・・・B(児童の割合が全体の75%) ・12学級中A評価は3学級、B評価は9学級であった。改善が見られた児童もいれば、生活リズムが乱れた子もいる。
地域保護者評価	○ロープジャンプが始まり、とてもよかった。クラスの友達と一つの目標に向かって努力することが、後ですばらしい宝物になる。 ○健康等、将来の生きる力として大切なものは、点数にならないものが多い。目先のものにとらわれることなく、長い目で見ていく必要がある。 ○ロープジャンプ等の活動の意味を明らかにし、上学年が下級生に伝えてほしい。	
改善策	○児童の運動意欲向上や体力向上に向けて、「1学級1取組」を実施し、運動の機会を確保する。 ○集団スポーツを通して、児童の社会性の育成を図る。 ○「早寝・早起き・朝ご飯」運動を推進し、チェック週間の実施、参観日を活用した学習会等、保護者と連携した取組を実施する。	